

防災士と移住

先週、地域防災リーダーの研修に行ってきました。その講座の中で感じたことをお話します。と言っても日本各地に発生した災害は、現代科学が最早成し遂げたものと錯覚していた「自然のコントロール」なるものは、実は単なる神話（お伽噺）に過ぎなく、巨大災害の前では、我々はほとんど無力であることを思い知らされ、防災という概念は少し異なるものと思います。災害を防ぐことはできないので、被災の最小化が我々の出来ることだと思われまふ。つまり、減災とか災害前の状態への復帰や、災害前から存在した課題を克服し、更に住みよい地域社会の形成に向けて活動（復興）が重要だと思ひます。

防災では、自助・共助・公助があると習ひました。先ずは、自分が被災しないように率先避難を行ひ、自らの生命と心身に回復不能なダメージを受けないようにすること。次に、自分の周囲の人への気遣ひです。家族、ご近所の人の救援や避難行動への援助と続きます。最後の公助というのは、警察・消防・自衛隊・自治体からの支援を言ひます。

しかし、災害時には、道路が寸断されるなど、現代文明が営々と築いてきた日常当たり前に存在している「生活インフラ」が突然消滅してしまふということとです。道路がなければ、救援隊も来られないし、支援物資も届きません。何日か経過後にはそれら回復しますが、それも不十分な状態で徐々に届くだけです。

だからこそ、その間に生命を健常に維持しておくことが必要となります。避難所生活を考へてみると、それは、普段の地域社会が濃密に圧縮され

た状態で出現するものです。性別、年齢、心身の状態などが様々な状態の人の集団です。その中で最大限の自己実現を考慮する必要があります。災害時の異常な状態での社会体制の問題です。各種の情報伝達の精度と速度を高め、災害弱者への配慮、残存資源の有効利用、個人の尊厳への配慮などです。かつては、緊急時であってもエゴを優先させる人が居て、泣く泣く避難所を出て自殺などの災害関連死に向かう悲しいことが多々起きたこともありました。

これらは、災害を契機とした状況で起こる課題でありまふが、平常時の田舎暮らしの中でも共通しており、日ごろから考へておくべきものであります。現代資本主義が生み出した便利で裕福な都市生活も、一皮むけば、生まれた時から進学（偏差値）・結婚・就職などあらゆる場面でランク付けがなされる過度の競争社会（勝ち組と負け組などへの分類）です。そこでは、日本の豊かな自然から受けるブレゼント、つまり四季折々の景色や食材を堪能しながら、今生きていることの幸せを感じる心が何時しか失われ、過度のストレスに心身を痛めつけられて、やっとの思ひで生きている悲惨な姿です。

それに、気づき、人間らしさを取り戻すために、自分の人生を変える準備ができた人から、順に「田舎暮らし」がスタートします。都会とは異なつた自然環境を享受し、田舎の人とのあたたかな触れ合ひと協力、経済的には貧しいですが、心は豊かな生活。それは、自然災害によつても、すべてが破壊されるも移住というのは、現在の生活を捨てることでもあります。過去の人間関係のほとんどは遮断

し、新たな人間関係を築くことです。過去の大組織での地位や名譽は不要である以のではありません。人類の営みは続きます。上に障害となる場合もあります。

現に当地で生まれ育ち営んできた生活は、当事者がどれだけ意識しているかは別にして、それだけで価値あるものです。住みよい場所を、多数決で投票したら、日本ではおそらく、東京が第一位となると思います。でも、それは錯覚です。人生のある時期に別の場所を知るとは、観光にしろ、留学にしろ、転勤にしろ、環境が変われば文化も変わり刺激がり、異文化交流により自らの見聞を広げ、人生を豊かにします。しかし、お祭りは終焉を迎えます。大切なのは、日常の生活です。日々の単調で退屈な日常です。そこで、感じられるのは、毎日が決して同じ日はなく、気が付けば移り行く季節と人時が変われば同じ場所でも見え方が変わります。そういったものの価値を我々日本人はずっと大切に守ってきました。

様々な自然現象の観察からくる自然への畏敬の念がありとあらゆる自然が「八百万の神々」となり、その神々への感謝の気持ちを表現するのが、お祭りです。近所の人との共同作業に従事して伝統を引継ぎ、老若男女が集うことの喜びと参加者間の感情の共有。こういったものが、今の日本で残されているのは、都市生活ではなく、人口減少に悩み、消滅危機を迎えている各地方です。都市生活で疲弊した心身を健全に戻し、感性を豊かにする。それを求めるのが移住です。

地方で移住者が地域社会で望まれるのは、他人からの援助を期待する依存症的性格の人ではな

く、地域参加型の人です。地域に参加して、その地域の良さを再認識したり、欠けているものを補い、地域の人と肩寄せ合って生きていこうとする、そういう心構えが出来ている人達に移住して来て欲しいものです。

移住には、職業（生業）や居住場所・形態、子供の教育、医療機関、介護施設、店舗の状況など色々な事情を検討する必要があります。その、社会インフラを見直すことで、従前の自らの生活に必要な不可欠のものは何か、無駄な消費生活のどこに問題があるか、どうやって解決するかなど、自らの人生観を見直す機会となるのが移住です。

私も移住定住促進協議会では、そういった情報提供や住居や職業に対する支援策は準備ができておりますが、最終決定権は読者の皆様にあります。移住してから知れた、ここ穴水町の様々な人などの情報を紹介してきましたが、今後も穴水町の良い点・悪い点を冷静にお伝えしていこうと考えています。移住をお考えの人が、穴水町をご一考いただければ幸いです。

